

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

グラディス相生橋

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進								
1.1 建物の熱負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.25	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御
住宅性能等級4相当	4.0	0.75	LRI	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制		
小計	3.8	0.14						
1.2 自然エネルギーの利用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LRI	エネルギー	2	自然エネルギー利用		
小計	3.0	0.05						
1.3 設備システムの高効率化								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.2	1.00	LRI	エネルギー	3	設備システムの高効率化		
建物全体のBEI値＝0.98								
小計	3.2	0.26						
1.4 設備システムの効率的運用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング
	3.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2 運用管理体制
	3.0	0.50	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅の評価	4.1 モニタリング
	3.0	0.50	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅の評価	4.2 運用管理体制
小計	3.0	0.10						
1.5 資源・マテリアル対策								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水
節水型便器の採用	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減
	3.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用
	3.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用
	3.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
	0.0	0.00	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材
	3.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み
小計	3.1	0.31						
1.6 ライフサイクルCO2排出率								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.4	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮		
LCCO2=3.7								
小計	3.4	0.13						
1「地球温暖化対策」の推進の評価			3.2	0.68				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進								
2.1 温熱環境の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出		
	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善
小計	2.5	0.97						
2.2 交通負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制
小計	3.0	0.03						
2「ヒートアイランド対策」の推進の評価			2.5	0.17				
■3.「長寿命化対策」の推進								
3.1 耐用性の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振
2種以上にB以上を使用	3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
小計	3.3	0.44						
3.2 設備の更新性								
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	0.0	0.00	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
給水管はスリーブ内を配管されている為、構造部材を傷めず修繕・更新が可能	4.0	0.25	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.13	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.13	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.25	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.25	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
小計	3.3	0.56						
3「長寿命化対策」の推進の評価			3.3	0.14				
■重点項目の総平均(上記3項目)								
			3.1					